中植　昭彦

農地を守ることは生活、まちを守ること 農地の保全、農業振興に早急に対応を

問 本町の農業を支えてこられた方々は地域の農業、生活を守り、発展させてきた。農家は農産品からの収入しか得ていないが、実際は治山治水、二酸化炭素の吸収や酸素の製造、下流域の漁場整備等も行っている。また農山村の景観、農産品は観光資源になると考えている。これからの地域の農業を担っていく世代が農業を継続する枠組みを構築するには、待ったなしの状況であり、さらなる施策の充実が必須である。考えを問う。

答 本町の農業は先人の努力によって営農を継続させてきた。近年は耕作者の高齢化や後継者不足等により営農を断念される方が増加している。このような状況下、良好な住環境を守るため農地の保全は重要である。

問 営農継続の問題点は、人件費、機械償却、栽培技術の指導、販売だと考える、これらを解消するため、ICT技術を駆使したスマート農業の導入の考えについて問う。

答 中山間地域では地形的な阻害要因から大規模化や自動化による生産効率の改善に支障があり普及が進みにくい現状である。

問 現在は詳細な地図データやビックデータの活用で阻害要因の解消が図られている。また、ほ場の再区画化を行うことも検討する必要があると考えるがどうか。

答 これからの農地保全は従来型では立ち行かなくなると考える。色々な手法を検討しながらトータルバランスをとっていきたい。

ほ場ごとに品質を測定
食味収量コンバイン

自動運転
ロボットトラクタ

無線遠隔草刈機

ドローンによる
薬剤散布

一般質問

森田　則子

一、教育現場におけるSDGsの取組み 二、GIGAスクール構想の取組み

教育現場でのSDGs

問 SDGsの考え方と現状及び、今後の取組みを問う。

答 世界的な視野で考え、地域の課題に挑戦できる人材育成をめざし、学校間連携を密にした保幼小中高一貫教育の取組みを、継続してきた。今後も人権教育を中心に据えたSDGsの取組みを、積極的に進めたい。

問 学校内にSDGsのステッカーを張るなどの工夫で、認知度を上げる取組みをしてはどうか。

答 17の項目を全部やることを、目標にするのは難しい。今の課題に結びつけて、SDGsの目標を、今ある実践とつなげていきたい。

問 教職員研修の取組みを問う。

答 SDGsの中で、関連や意味づけを行い、教育課程に適応した見える化を、図ることができる教職員研修を行う。

GIGAスクール構想

問 ICT環境の現状と整備予定を問う。

答 教室内の無線アクセスポイントを整備するための費用を一般会計補正予算の中でお願いしている。

問 端末を一人一台配備するICT化整備環境5か年計画の見通しを問う。

答 令和5年度までに地方財政措置と、国庫補助金を有効に活用し、整備していく方針で計画を改定した。

問 最先端技術導入による教育現場の効果を問う。

答 特別な支援を必要とする子どもを含め、多様な子どもたちの反応を踏まえた双方向型の一斉授業が可能になり、子どもの学びの深化を期待できる効果があると考える。

ICT 教育授業イメージ